

## 都鄙兒童自由畫展覽會を見て

一 會 員

純眞な心を有してゐる幼い子供等が感じたまゝを素直に表した、子供の自由詩とか、子供の自由畫とかは、近頃非常に重んぜられて來まして、小學校や幼稚園の教職にある方々や、家庭の父兄が非常に心を用ひて來たやうです。この爲か、去る五月十四日から十七日迄、澁谷常盤松の東京農業大學文藝部主催で、同校内に都鄙兒童自由畫展覽會も、毎日幼稚園小學校の先生方が兒童をひきつれられたり、又父兄の方が子供達をひきつれられたりして、校庭内に咲き匂ふ美しい花やしたゝる新緑を眺めかたがた、多數集つて居られました。出品畫は百三十點で、皆自由畫協會山本鼎氏等の選を経たもので、都會側からの出品は牛込の成城、本郷の富士前の兩小學校があり、地方側では信州の龍丘小學校、千葉師範附屬小學校の兩校がありました。東京市内でも、成城、富士前の二校に限らず、各小學校、各幼稚園からの出品が集つて居りましたならば、どんなに私共が見

ましても興味が多かつた事とせう。然しこの展覽會の幹事の方は、これは最初の試みであるから、計畫が充分行かなかつたが、次の催しからは、東京も地方もすべて出品學校の範圍を廣くして、種々變つた兒童の繪畫を竝べて、社會の方々が研究材料にし、自由畫の未來の發展に盡力したいと言つてゐられましたから、此の次ぎの催しはきつと立派な事と思ひます。成城小學校の出品は、帝展や二科會あたりへ出しても見劣りしない程の立派なものですが、色合の具合と云ひ、位置の取り方、觀察の點等、餘りにまどまり過ぎてゐて、これで子供が描いたかしら、と首をかしげさせられるやうなのが多いのに、少々驚きました。私共に餘り技巧に秀でたのよりも、ほんどうの實感を表したのが自然であり、また尊いやうに思はれます。こゝにどこの小學校か、今記憶に残つてゐませんが、たしか東京の小學校のでしたか、「人げん」といふ題で、尋常一年の女の兒が描いた繪

がありました。丸髷に結つた女の顔で、赤の手柄の丸髷がよこちよに描いてあつたり、お鼻がまがつたりしてゐるのは、却て愛嬌をそへて、場内の人々は皆その繪の前に立つて、子供の眞剣な描き方と觀察の妙味とに、引きつけられてゐました。これは多分その女の兒のお母さんの寫生に違ひありませんが、お母さんを寫生して「人げん」と題をつけたのなぞも、お母さん獨りが子供の目に「人げん」なるものゝ實質を與へてゐるので、心理學上から見ても面白いことだらうと思ひます。大人の畫家がこの女の兒と同じに、赤い手柄の丸髷の婦人を描きましたら、きつと、「女」とか、「美人」とか、言ふ極く平凡な題しかつけられなかつたらうと思ひます。「人げん」といふ題は、眞に子供が感じたまゝの最も尊い、然し天才的な表方でありませう。成城小學校等の繪は皆技巧に秀れてゐるに反して、信州の龍丘小學校のは、さすが水美しい山地の自然に親しんで育つた山間の子供達だけあつて、描くものは皆風景で、廣々とした野や、巨人のやうな樹木やが、子供の目で見られ、子供の手で描かれてゐるのは、實に飾り氣もなく生き／＼とした天然に接してゐるやうな氣がして嬉しく感ぜられま

した。この二つの傾向を表してゐる繪畫を飾る爲に、會場内には、東洋幼稚園の岸邊福雄氏が南洋から持ち歸つたバラオ小學校生徒製作の繪畫十六點がならべられてゐました。椰子の葉蔭、豐艶な果物、熱風といふやうな強烈な色彩の國土に住んでゐる子供達の生活が描かれてゐたもので、椰子の葉蔭で奇妙な舞蹈してゐる様や、土人が生首をかくと云ふ殺伐なものに至る迄、原始の香のある自由畫が澤山ありました。日本の國の幼い子達がかう云ふ様にして生活してゐる時に、又かの南洋ではこのやうにして生活してゐるといふ事は、子供自身がこの繪の前に立つ時、きつと興味を引く事とせう。日本の各地の小學校幼稚園が連合して、毎年春秋にこのやうな自由畫の展覽會を開き、南洋にも、支那にも、歐米にも、出品をすゝめて、大展覽會を催しましたら、自由畫の發達の上、又子供達の世界的親睦の爲め、さぞ愉快な事だらうと感ぜました。